

【評価実施概要】

事業所番号	170201412		
法人名	はまなす介護センター株式会社		
事業所名	はまなす介護センタ光星		
所在地	札幌市東区北13条東13丁目2-3 (電話) 011-752-2100		
評価機関名	非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(H19年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 8月 6日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤	21人, 非常勤 0人, 常勤換算 0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての	2~4	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~45,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円
敷金	有(35,000~45,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
月29,000円(但し外食等で3食とも食事をとらない場合は日割り減額する)			

(4) 利用者の概要(11月 27日現在)

利用者人数	26 名	男性	8 名	女性	18 名	
要介護1	8	要介護2	8			
要介護3	8	要介護4	2			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	80.6 歳	最低	63 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クラーク病院、さくらデンタルクリニック、南札幌病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、区の中心部にあり交通手段も地下鉄から徒歩約10分で、住宅街の中に白色で鉄筋4階建てである。既存の建物を利用し、4階までのエレベーターが完備されたホームである。1階はケアハウスとホームの事務所、2~4階をユニットとして使っている。職員は笑顔がよく、利用者も安心して暮らしている様子が見える。利用者の要望があれば、地方まで墓参りにも行っている。家族との関係は、介護計画作成と同意について親切・丁寧に対応して訪問しやすくしている。職員と利用者が明るく生き生きと暮らしていることが感じとれた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題については、全職員で意義を理解して「応急手当の対応」「危険物の保管」「職員研修の場への参加・他のグループホームとの交流」に取り組み、改善されていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価に全職員が取り組み、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営委員会は包括支援センター・町内会・民生委員・家族の参加で行われている。防災訓練も、運営委員会として地域に協力を求めながら実施している。地域でひとり暮らしの高齢者と一緒楽しめる縁日や祭りなどで、ホームが交流のできる場になるように、一層の充実に向けて取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 各ユニットに『意見箱』を設置、来訪時に要望・苦情を受け入れている。来訪したときには、ホームでの生活や介護計画作成過程など細かく親切に説明をしている。運営推進会議において地域等からの参加委員からも意見を聞き、サービスの改善に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会、地域の祭りや行事に参加している。縁日や七夕などのときは駐車場を利用して町内の方たちとの交流の場になっている。今後、お茶会の開催と町内会に広報の配布を検討し、地域で必要とされる役割を築いていく努力を重ねている。

評価結果（詳細）

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念「しあわせになる」の下、地域・町内会行事に積極的に参加し顔馴染になり、さらに「運営推進会議」を定期的で開催し、グループホームの生活を地域・町内会の住民に知ってもらえるように努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「しあわせになる」の理念を掲げ、カンファレンス会議・毎日の申し送り時に、利用者にとって一番良い生活することを個々人に照らし合わせて討議している。スタッフの技術的な悩みも全体で検討し支えあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事はもちろん、敬老会、夏祭りに積極的に参加している。縁日・七夕には駐車場を利用し、食べる、飲むなどして交流の場になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の目的を理解し、職員との意見交換をおこない、支援のあり方の質を高めるように努めている。評価調査結果については、職員と再度検討し改善に努めている。自己評価・外部評価を各ユニット毎に掲示し、誰れでもが閲覧できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会との関りの重要性を理解し、実践されてきている。運営会議のあり方・内容について、救命講習会実施など色々工夫しながら取り組んでいる。		運営会議において、前回の会議がどの様に話され、検討事項についての結果報告することで、取り組みの状況がわかりやすくなると思われる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	通常の行政報告の他、札幌市管理者会議・東ブロック管理者会議・グループホーム協議会などの研修に参加・交流により、直接・間接的に行政方針の理解などに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりを「はまなす便り」の発行と電話でこまめな情報提供があり家族等は安心してることがうかがえる。家族向けお便りに、今以上の写真を多く使い回数を増やして行くことを職員との話し合いで確認されている。金銭管理の使途確認など個別の報告内容を徹底している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議に家族の方も参加してもらって意見を求め、得られた意見・要望等は「苦情報告書」に記載し、具体的なサービスの取り組みに活かしている。苦情箱を玄関と各ユニットに設置して、意見を求めている。運営推進会議など外部の人にも意見等を出してもらえる場としてあることを、機会がある事を繰り返し説明して努力をしている。		家族等の集まりの場で意見・要望等を安心して言い出し易い場面作りとしての「家族会」を設ける事も検討することになっている。家族会の実現に期待したい。
9	18	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、退職については、運営委員会での説明と家族などが来訪したときなどに話をしている。3ユニットの利用者全員の状況、特徴を全職員が把握できるような全体会議を設け、利用者が安心して、各ユニットへ自由訪問ができるようになっている。		職員の異動などについては、家族等に判るように定期的な「お便り」を利用して周知することも一方法と思われる。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などにも交代で参加させている。内部研修として、カンファレンス会議でも行っている。職員と管理者との個人面談で、ケアについての指導をしている。		色々工夫した研修を実施しているが、外部研修に出席できる機会が多くなると、さらに質の高い支援が出来るのではないかとと思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市および東ブロックの管理者会議・グループホーム協議会に参加し、サービスの質の向上に努めている。東ブロックの同業者との相互訪問による経験交流・研修会も検討されている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所に当たって、事前に家庭へ伺い、本人とも面談し説明と要望を聞き、ホームの見学とお試し期間を設けて徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活場面の中で、ライフヒストリーを踏まえて、得意な分野で力を発揮してもらう場面設定を工夫し、お互いに学び合う事に留意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>暮らし方が「本人はどうか」の視点に立って、むろ方式を取り入れ、暮らし方の意向をきめ細かに把握し、日々の会話・表情の中から真意を汲み取り、家族を交え最良の支援取り組みを検討している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の申し送りで利用者の変化を観察し、ケアマネージャーとスタッフが意見交換・カンファレンス会議を行い、相談しながらケアプラン作りに活かしている。同時に家族等への説明と意見・要望を求めている。今後アンケートも採用し意向の情報を積み上げていく計画がある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎の見直しの他に、日々の申し送りの時点で変化が起きたときには、ケアマネージャーと相談し計画変更を実施している。その他、随時本人・家族等との話し合いで気づきや意見を確認し、実情に即した見直しにも取り組んでいる。日常、利用者の状態変化等をケース記録・ユニット誌に記録し、臨機応変に新たな計画変更を活かしている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人・家族の状況に応じて外出の支援・移送サービス等自主サービスも柔軟に行い個々の要望に応じている。通院、趣味の教室・他市町村への墓参りに同行等の希望に対応し、個々の満足度を高めるよう支援している</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科・歯科の協力医療機関があり、定期的な受診、健康面での心配事・変化にその都度相談できる密接な関係を築いている。担当の医師・看護婦から継続的な医療を受け、内科医は月2回の往診があり、家族等とも相談しながら十分な話し合いが行われている。個々のかかりつけ医の診療も支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医師と相談の上、ホームで無理と判断された場合は退去してもらうことを文書化されており、契約時に確認と同意書をもっている。現在の介護情勢から、終末期における介護について話し合いがもたれている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの人権を尊重し支援をしている。管理者は日々の関わり方を点検し、ミーティング時に意識向上を図る事を徹底している。記録等の書類は、部外者が目に入らないように保管棚に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>物事を判り易く説明するように努め、絵カードも利用して、自己選択・自己決定をもらえるように取り組んでいる。買い物・散歩など職員同士の配置を工夫し、柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が献立表を作成、個々の食事摂取量・適正加減・食材等の記録を参考とし、利用者の身体状況・嗜好・栄養のバランスに配慮している。利用者には、調理の下準備・盛り付け・片付け等を利用者の意志・力に合わせて共に行い、職員全員が食卓と一緒に同席し、同じ物を楽しく食べる事を大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のローテーションを組んで行っている。職員は、本人の生活習慣・希望・身体の状態に合わせた入浴に配慮し、入浴できない場合は、清拭など身体の清潔を保つよう個別に対応している。入浴を拒否する人にも、音楽を流す等工夫し職員全員で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	暮らしを共にする中で、習慣・希望・できる力を踏まえて、何が楽しみ事になり得るか把握し本人に働きかけをしている。趣味で現在詩吟を習いに行っている方、カラオケに出かける方がいる。趣味を続けてもらうように支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬場を除き、晴れている日は利用者の状態・希望等その時々状況に合わせて外出している。買い物やドライブにも出かけている。日常的な散歩・買い物、花見・紅葉狩り等のレクリエーションなど戸外で生き生きと過ごせるよう工夫している。		重度・車椅子利用の人も同様に外出が楽しめる支援について、ボランティア導入などで、希望が叶えられるようにしていくことを検討している。大いに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットは鍵をかけていない。ドアに「お出かけのときは声をかけてください」のポスターを張り出したところ、利用者は声かけをしてくるようになった。夜間だけ玄関とユニット扉は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	消防署の協力を得て、運営推進会議として防災訓練を町内会に協力を働きかけ、さらに地域防災訓練にも参加している。避難訓練は年2回実施している。		4階建てで3～4階脱出用具は設置されているが、非常口が無い。消防法では問題ないのだが、利用者の身体的状況から、何らかの工夫が必要と感じられる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	献立表は栄養士が作成し、食べた量などをチェック表につけて見守っている。個々の嗜好も把握し、栄養士と相談し個別支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居間には手づくりの暦を飾り、季節感を出す花が飾られている。飾り付けにも居心地の良さを整える工夫・配慮が見られる。台所がすぐそばにあり、調理や後片付けなど容易にできるようになっている。浴室は広くゆったりと入浴できるようになっている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	各個室は使い慣れた家具や馴染みの物、仏壇を持ち込んでいる。その人その人の思い出の写真や飾り物で部屋を明るくしている。		

 は、重点項目。